

2014年(平成26年)8月13日(水曜日)



増毛山道の復元コースを散策し、往時の生活に思いをさせた夏休みミニツアーの参加者

## 親子らが歴史と自然学ぶ

### 増毛山道初の夏休みミニツアー

留萌振興局、留萌信用金庫、NPO法人増毛山道の会(伊達東会長)主催の「増毛山道を学び隊 夏休みミニツアー」が9日、留萌合同庁舎と増毛山道で行われ、留萌市と札幌市から参加した小学生とその保護者の親子7組と一般合わせて20人が、増毛山道展を見物して知識を深めたあと、復元ルート歩いた。

増毛山道は、江戸時代末期の安政4年(1857年)に開削された、増毛町別荘と石狩市浜益区幌を結ぶ全長27・8キロの山道。近年は使用されずササに覆われていたが、同会

が22年度にササを刈るなど復元作業を行い、23年度から体験トレッキングを実施している。また、今年度は雄冬山(1977米)直下までの約5キロの復元にも取り組んでいる。

通常の体験トレッキングは中学生以上を対象としているが、より幅広い世代に山道の魅力を伝えるため、初めて企画した今回のツアーでは保護者の同伴を条件に小学3年生以上を対象とした。

参加者は、午前8時に留萌合同庁舎に集合。1階道民ホールで開いている増毛山道展を見学し、パネルや写真など

を見ながら山道の歴史に理解を深めた。

続いてバスで増毛町に移動

し、標高600メートル地点の循環林道南交点から途中の昼食休憩を含め3時間かけて5キロのミニコースを往復。子供たちは、明治時代に設置された武好駅通跡に残る空き瓶を見て、往時の生活に思いをほせていた。

また、一等水準点前で山道の会のメンバーが「愛知県三河地方で作って運んできたんだよ」と伝えると、距離の遠さに驚いていた。(原田学)